

晴海地区将来ビジョンの実現に向けて【平成28年度】

【平成29年3月28日】
晴海地区将来ビジョン推進会議

1. 晴海地区将来ビジョン推進会議の取組について
2. 将来ビジョンの実現に向けたソフトの具体的な検討の方向性

【参考】 晴海地区将来ビジョン推進会議の開催内容について

1. 晴海地区将来ビジョン推進会議の取組について

これまでの取組

晴海地区将来ビジョン推進会議では、平成26年12月の『晴海地区将来ビジョン』策定以降、当該ビジョンの実現に向けた取組について、適時適切な情報共有と地域全体として取組むべき方向性についての意見交換を行ってきました。

特に、晴海五丁目西地区の整備計画が明らかになり、大会後約12,000人もの人口増加が見込まれることや、環状第2号線等の街区形成の特徴などを踏まえ、晴海地区全体のコミュニティ形成を重要な視点として議論を重ね、大会後の整備イメージと今後の取組課題について整理を行い、平成28年3月に『晴海地区将来ビジョンの実現に向けて【平成27年度】』を取りまとめました。

今年度の取組

今年度の取組として、昨年度に取りまとめた『晴海地区将来ビジョンの実現に向けて【平成27年度】』で今後の取組課題として示した「ソフトの具体的な検討」について議論を行い、その方向性などについて整理し、『晴海地区将来ビジョンの実現に向けて【平成28年度】』を取りまとめました。

2 晴海地区における取組の方向性

「晴海地区の将来の役割」を踏まえ、晴海地区のまちづくりを『つながる・暮らす・交わる・憩う・支える』のキーワード毎に整理し、取組の方向性を示します。

世界をリードする先端技術を活かし、知的創造を育む居住・滞在・憩い空間

つながる (周辺地域をつなぐ広域交通と人をつなぐ文化交流)



○広域交通

- ・BRT（晴海～勝どき～銀座）の整備
- ・地下鉄新規路線の導入
- ・水上バスの誘致

○文化交流

- ・既設のホール（トリトン第一生命ホール）、今後の誘致を目指す文化教育施設、オリンピックレガシーを活用した、文化交流（スポーツ・健康・食など）の実施



暮らす

(ウォーターフロントを活かした居住エリア)

○住まい

- ・持続的に多様な人々・幅広い世代が住まう街を目指し、分譲住宅に加え、賃貸住宅、学生寮、社宅、SOHO、宿泊施設、サービス付高齢者住宅など、多様な住まいの創出

○地域コミュニティ

- ・晴海に暮らす住民、学生、社会人が防災などをテーマに地域貢献活動ができるような広場や地域集会所を適切に誘導



交わる

(晴海の中心軸)

○公共・公益施設、生活利便施設、医療・福祉施設

- ・生活利便性の確保を目指して、行政サービス施設などを適切に配置し、業務・商業施設をはじめ、中規模なショッピングセンターや路面店舗、入院可能な医療施設、教育施設、福祉施設、金融機関を誘導

○文化教育

- ・昼間に若い世代が滞在する街を目指し、知的創造ビジネス、大学等を誘致



憩う

(親水性のある公園・緑地エリア)

○みどり・オープンスペース

- ・晴海の中心軸や水辺は、公園・緑地と歩行者のプロムナードとして整備
- ・海生生物と触れあえるビオトープ等の整備
- ・民間開発による一般に開かれた広場の整備
- ・ユニバーサルデザイン・バリアフリー、修景への配慮

○スポーツ・健康

- ・選手村練習施設を活用したスポーツ活動、健康増進
- ・歩行者プロムナード等を活かしたジョギングコースの設定



支える

(最先端技術の活用)



○環境

- ・中央清掃工場の排熱など未利用エネルギーや太陽光の再生可能エネルギーの利用促進
- ・環境に優しい地域交通の導入検討（スマートモビリティ、水素ステーション、燃料電池バスなど）
- ・エリアエネルギーマネジメントシステムの導入促進
- ・省エネの見える化など意識面向上に向けた取組

○防災

- ・防災拠点の強化（新設する小学校等）
- ・地域特性を踏まえた防災ルールづくり
- ・民間開発に伴う備蓄倉庫等の設置誘導
- ・災害時の通信インフラの強化
- ・帰宅困難者への対応
- ・スマートシティ機能の導入（高層マンション住民の安否確認、帰宅困難者対策等）



一体感のあるまちをめざして

【中心軸】【水辺のネットワーク】【先進技術】の3つの視点によるハード面の整備を契機に
ソフト面の取組を充実していくことで、地域交流を促進

【1】 中心軸の賑わいの充実

ハード：低層部には生活利便施設などを配置するとともに、安全かつ円滑で快適な交通環境を確保し、生活者や来街者が行き交う賑わいのあるエリアを形成。特に主要交差点部周辺には、BRTや地域内交通の結節点、広場、商業、文化交流、公共・公益施設の配置などにより、人々が集まる拠点を形成。

ソフト：行き交う生活者や来街者の交流が促進され、中心軸全体でコミュニティが育まれるよう、中心軸に面して整備される広場などにおいて、地域活動を推進。

【2】 水辺のネットワーク・交流機能の充実

ハード：地区内の主たる公園・運動広場を起点として、水辺にプロムナードや公園、緑地、広場等を連続的に整備し、水辺のネットワーク・交流機能を充実。

ソフト：水辺のネットワーク全体でコミュニティが育まれるよう、水辺の公園・緑地などにおいて、地域活動を推進。

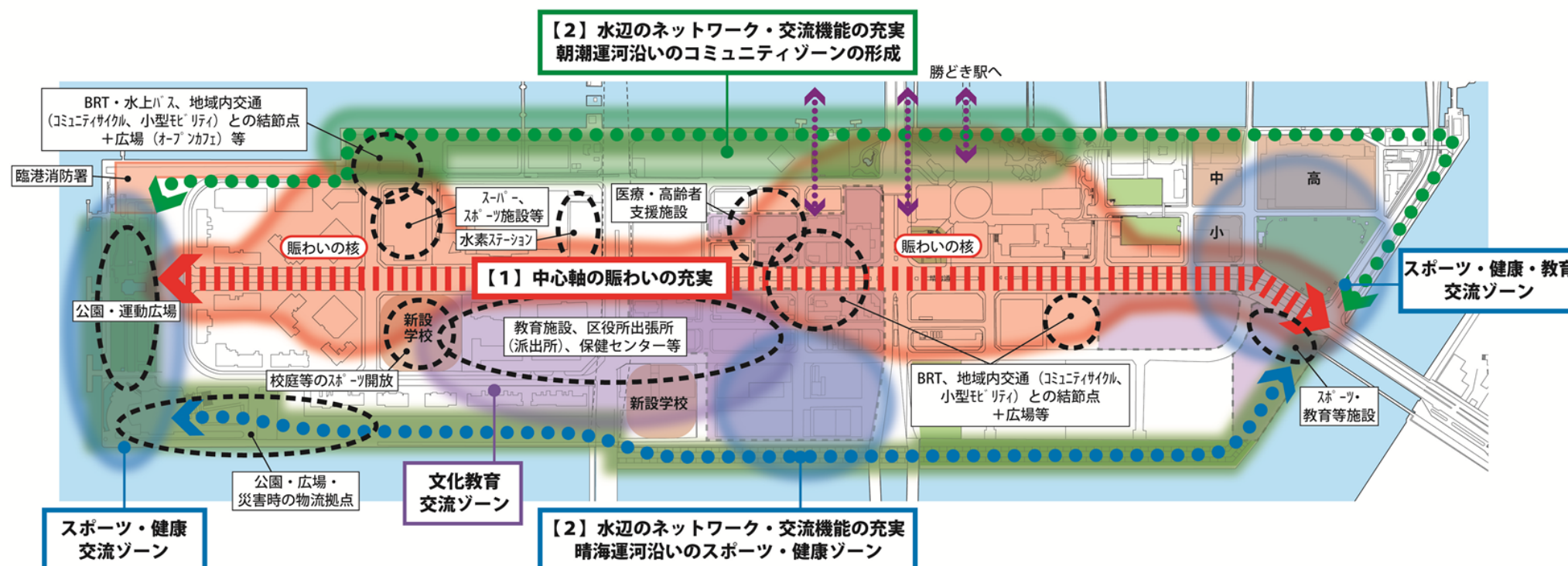
【3】 先進的な環境技術の活用による二酸化炭素排出量の削減や防災力の向上、地域交通機能の充実

ハード：水素ステーションの設置やBRT・カーシェアリングへの燃料電池車の導入。防災拠点において燃料電池車を非常用電源として活用。清掃工場の排熱利用や再生可能エネルギーの利用。

ソフト：環境や防災等を通じた地域活動の推進。

【地域交流のイメージ】

晴海地区全体の交流、地域企業と地域住民の交流、高齢者が働くことができる環境整備、
高齢者と若い世代・世帯や子供たちとの交流等が促進される



2. 将来ビジョンの実現に向けたソフトの具体的な検討の方向性

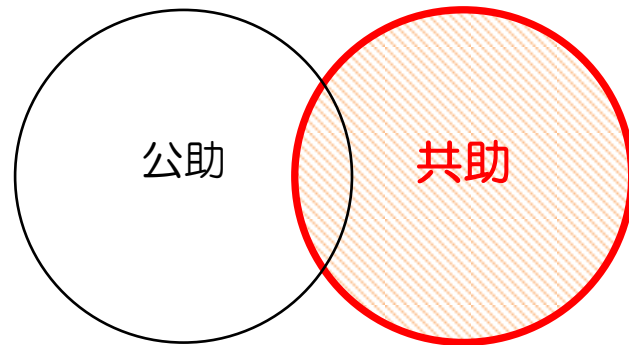
平成28年度の晴海地区将来ビジョン推進会議では、中央区の施策の枠組みを参考に地域が主体となって行うソフトの具体的な取組についてのアイデアを持ち寄り、「一体感のあるまちの実現」「実現に向けた可能性」について議論しました。

持ち寄られたアイデアは、平成26年12月に策定した『晴海地区将来ビジョン』に示した「選手村レガシーの活用に向けた提言」に沿って、「スポーツ活動・健康増進」「文化交流・文化教育を通じ国際感覚を育む環境づくり」「多様な世代が暮らせる住まいづくり」「地球環境や防災機能の向上」の4つの分野に整理し、取組を行う上での共通した課題を抽出しました。

抽出した課題を踏まえ、既存の取組を拡充し、東京2020大会のおもてなしにも関与できる取組を「モデル的な取組」として捉え、今後、取組の具体化、運営に関する仕組みなどの検討が必要と考えます。

2-1. 取組のアイデアについて

【当会議の検討・議論の対象】



「地域交流が活性化し、一体的なコミュニティが育まれるまちづくり」の実現に向けたソフトの具体的な検討を行う上での前提条件として、行政が主体となる公助ではなく、地域の方々が主体となる共助の取組を対象としてアイデアを持ち寄り、検討を行いました。



持ち寄られたアイデアを『晴海地区将来ビジョン』に示した「選手村レガシーの活用に向けた提言」に沿って、「スポーツ活動・健康増進」「文化交流・文化教育を通じ国際感覚を育む環境づくり」「多様な世代が暮らせる住まいづくり」「地球環境や防災機能の向上」の4つの分野に整理しています。

また、晴海で行われている既存の取組を参考として記載しました。

2-1-(1) スポーツ活動・健康増進

【目的】 ～2020東京オリンピック・パラリンピック選手村整備を契機として～
幼児から高齢者まで誰もが気軽に参加できるスポーツを通じて、人々のふれあう機会を増やす。

アイデア	参考 地域で行っている既存の取組等
○健康寿命を10年延伸するためのヘルスケア活動 晴海地区に住まわれている高齢者を対象に、散歩・体操・健康維持のための座学等の活動を展開	・高齢者クラブ 高齢者が健康で豊かに暮らしていくための自主的な組織 区民館等で体操や健康に関する講座等を実施している ・地域サークル 踊りや茶道・華道など趣味のサークルを行っている
○スポーツイベント ・スポーツ選手のトークショー、子供達を中心としたスポーツ体験イベントの開催 ・自治会・マンション対抗戦（ソフトボール、フットサル等）の実施	・晴海トリトンスクエアのグランドロビーでスポーツ選手のトークショーやスポーツ体験を実施
○スポーツ活動（日常的） ・太極拳、ヨガなどの活動 ・水辺のプロムナードを利用した晴海ウォーキングの推奨 ・健康器具を使用した健康づくり講座の実施 ・スポーツ教室の実施	・晴海トリトンスクエア内・周辺において、有志で太極拳を毎週土曜日の早朝に実施 ・晴海ウォーキングとして晴海トリトンスクエア周回コースで実施 ・中央区地域スポーツクラブ「大江戸月島」 小学校の体育館を中心に、テニス、カヤック、チアダンス、キッズHIPHOP、ハワイアンフラ、ヨガ、高齢者健康体操、児童体操、フックフットボール等の活動を実施

【将来の姿】

晴海ふ頭公園や水辺のプロムナード等、住民や就業者が気軽にスポーツを楽しむ環境が拡充されるとともに参加意識が向上し、スポーツを通じた健康増進やコミュニティの醸成が図られ、スポーツの街として認知されている。

2-1-(2) 文化交流・文化教育を通じ国際感覚を育む環境づくり①

【目的】 ～晴海で実施されている文化活動を生かして～
幼児から高齢者まで気軽に参加できる文化活動を通じて、人々の触れ合う機会を増やす。

アイデア	参考 地域で行っている既存の取組等
○晴海トリトンスクエアの既存取組の拡充 ・グランドロビー等で開催されている催し、晴っ呼まつり、フラワーカーペット等を拡充 ・グランドロビーでの取組回数を増やす、住民が参加しやすいよう広報・PRを強化する、同様の取組を晴海五丁目西地区でも行うなど 例) 晴海を花と緑で覆うフラワーフェスティバル	・晴海トリトンスクエアの取組 大江戸農園、晴海夜勉、フラワーカーペット晴海、フラワーアイランド晴海2020、晴海晴っ呼まつり、トリトンビアフェス、グランドロビーコンサート、トリトンバナーコンテスト、第九の会トリトン公演等
○外国の方々への情報発信 晴海を花と緑で覆うフラワーフェスティバルやお祭りなどの取組を、東京2020大会時に英語等で発信。あわせて継続される当該取組に対して外国人への参加も誘導する。	

【将来の姿】

地域の伝統やコミュニティを理解し、それらの継承を図りながらコミュニティの醸成、担い手の育成、来街者へのおもてなしが行われ、住民同士、住民や就業者、世代間等様々な交流が図られている。

2-1-(2) 文化交流・文化教育を通じ国際感覚を育む環境づくり②

【目的】 ～月島地域のコミュニティとして象徴的な伝統行事を生かして～

月島地域の伝統行事を通じて、とりわけ地理的条件で地域から分断する懸念のある晴海五丁目と既存地域の方々が一体的となるコミュニティを形成する。

アイデア

○地域伝統の発信

住吉神社大祭を地域の伝統であることを理解したうえで、大祭と同様に御輿を担いで東京2020大会時におもてなしを行うとともに、大会後となる平成33年・36年の大祭には晴海五丁目西地区の新住民を迎える工夫を推進。とりわけ子供たちへの学習の機会を設け、地域の理解、東京2020大会の参加意識を高める。

参考 地域で行っている既存の取組等

- ・住吉神社の大祭
- ・盆踊り

【将来の姿】

地域の伝統やコミュニティを理解し、それらの継承を図りながらコミュニティの醸成、担い手の育成、来街者へのおもてなしが行われ、住民同士、住民や就業者、世代間等様々な交流が図られている。

2－1－（3）多様な世代が暮らせる住まいづくり

【目的】 ～晴海地区の課題改善を目指して～
子育て世代や増加する高齢者への支援とともに地域の担い手育成といった地域課題の改善を図り、住み良い居住環境を構築する。

アイデア	参考 地域で行っている既存の取組等
○パパママ交流サロン 子育て中のパパ、ママに対して育て方を教えたり悩み相談が互いのできるサロンを設置 ○高齢者交流サロン ・ヘルスケア活動も含め高齢者同士が交流する場を設置 ・サロンメンバーで独居世帯を中心に声掛け活動	・ 高齢者クラブ（再掲） 高齢者が健康で豊かに暮らしていくための自主的な組織 区民館等で体操や健康に関する講座等を実施している
○各世代の交流を通じて地域の担い手を育成 様々な取組を通じて、子供、青年、壮年、高齢者が適材適所に担い手や参加者として参加し、そうした活動や交流を通じて、次世代の担い手を発掘し育成	・ 青少年委員 少年リーダー養成研修会のほか、担当地域を中心に、地域における青少年教育活動の指導者の役割
○高齢者の活躍の場 元気な高齢者を対象にした活動の場・組織をつくり、児童の通学路見守り、防犯・火災予防活動、清掃活動、独居老人の声掛け活動、趣味を活かした教室の開催、コミュニティカフェなど地域活動に従事	

【将来の姿】
子育て世代、高齢者世代に着目しつつ、あらゆる世代が交流できる環境がつくられ、その中で次世代の担い手が育ちながら、地域活動が充実している。

2－1－（４）地球環境や防災機能の向上

【目的】 ～最先端技術による設備設置を契機に～
生活上不可欠な防災や環境に関する活動を通じて、人々の触れ合う機会を増やす。

アイデア	参考 地域で行っている既存の取組等
○防災対策の更なる充実 ・高層オフィスと高層マンションの街として、これまでの取組に加え、他の震災事例を参考に、必要な訓練を実施 ・今後、帰宅困難者や来街者の避難との役割分担など、企業との連携も強化	・住民側は防災拠点運営委員会にて訓練を実施 ・晴海トリトンで定期的に、AED講習会・救命救急講習会や献血活動並びに骨髄ドナー登録活動を開催 ・企業側は拡大共同防火防災協議会を第一生命ホールで実施
○環境に関する参加型のイベント開催 晴海五丁目西地区に導入する水素などを活用した環境先進技術やシステムなどを、楽しみながら学べる参加型のイベントを開催	・企業有志によるまちの清掃活動 ・町会による公園の維持管理活動

【将来の姿】
防災訓練、環境イベントや環境活動を通じて、地域の方々の交流が促進されコミュニティの醸成が図られ、地域の企業や研究組織等の知恵や工夫が生かされた安全・安心なまちが形成されている。

2－2．取組の方向性

◎課題

①企画・運営を行う担い手の育成・仕組みの構築

取組の実施には、企画・運営を行う担い手が必要であり、既存の取組においても担い手の育成が課題となります。さらには、取組に必要な資金調達などの運営の仕組みを構築する必要があります。

②広報、PRの強化

既存の取組について認知度が低いものもあることから、より多くの方々に参加してもらうためには、取組に対する広報・PRの強化が必要です。

新たな場所で行き組む際には、地域の方々へのご理解を得ることも必要です。



◎取組の方向性

新規に取組を実施するには、企画・運営を行う担い手の募集や地域の方々の理解を得るなど、取組開始までの調整事項が多く、準備に非常に時間がかかることが予想されます。

一方、東京2020大会における選手村を擁する晴海では、その機会を活かすことで取組の認知度が高まり、多くの参加者を得ることができると考えられます。

こうしたことから、既存の取組を拡充（担い手の育成に取り組みやすいこと、地域の理解を得られやすいこと）し、東京2020大会のおもてなしにも関与できる取組をモデル的な取組として捉え、今後、取組の具体化、運営に関する仕組み、PR方法などの検討が必要です。

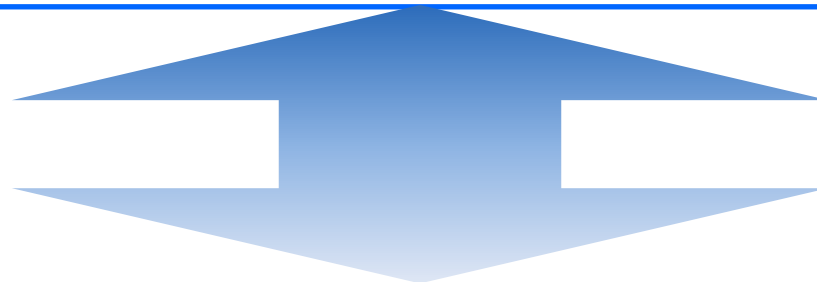
2－3．来年度の取組イメージ

晴海地区ビジョン推進会議

- ・ハード計画内容の確認
- ・ソフトの検討

ソフトの検討内容

- ・具体的な運営の仕組み（体制、場所、支援の受け方）
- ・具体的なPR方法
（モデル的な取組に参加してもらうための就業者及び住民への周知方法）
（担い手（就業者、住民、学生）の呼びかけ等）



モデル的な取組

- ・各者、各団体で
個別に検討
（右は例示）

夏祭り・盆踊り



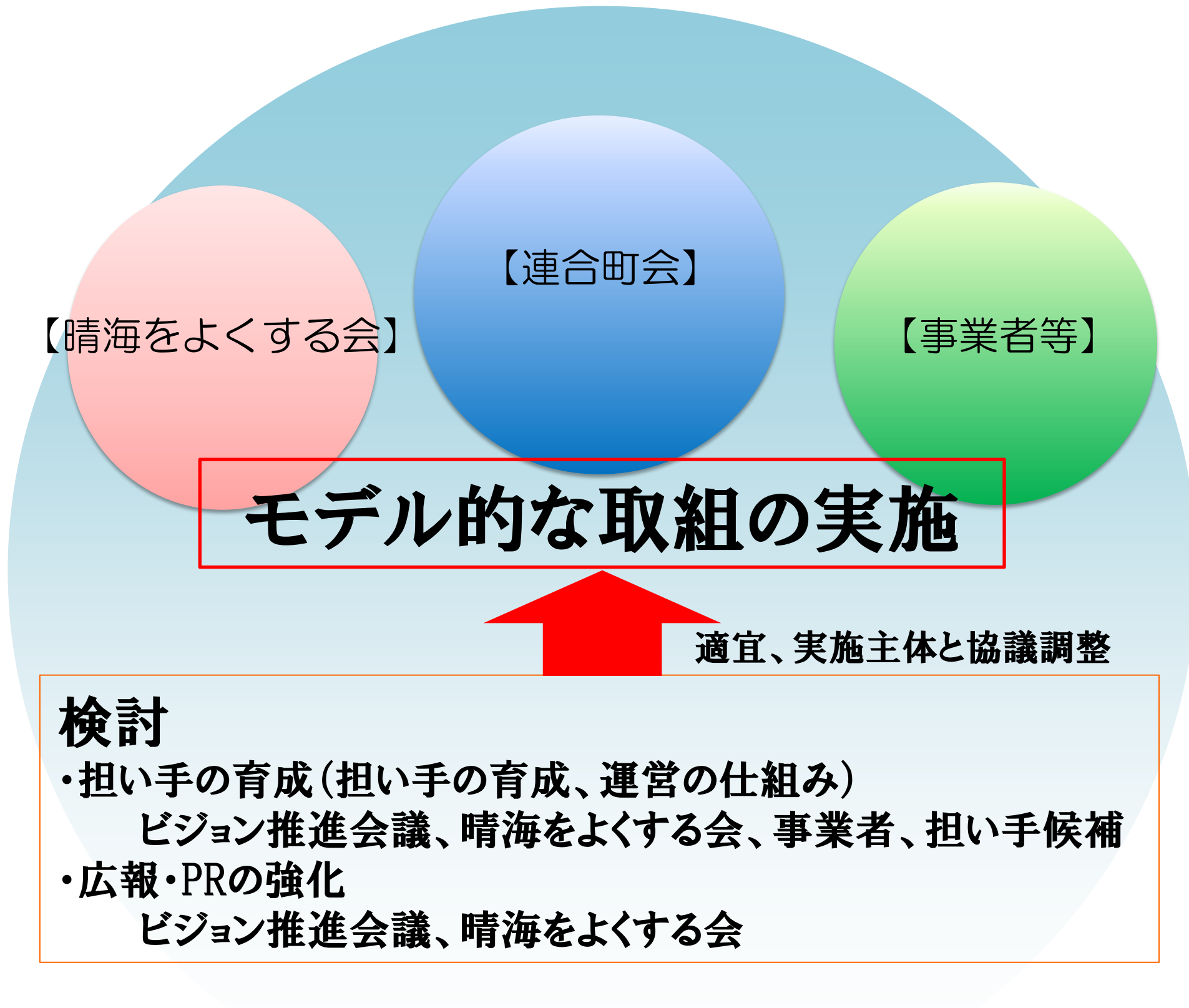
花とみどり



スポーツ



晴海地区の役割イメージ（案）



晴海地区将来ビジョン推進会議の開催内容について

	開催日時	開催場所	議事
第1回	平成28年5月15日 14時～	アートはるみ	1. 平成27年度第七回（前回）推進会議の議事要旨の確認 2. 前回会議からの進捗状況について 3. 今年度の晴海地区将来ビジョン推進会議について
第2回	平成28年8月7日 14時～	晴海区民館	1. 前回推進会議の議事要旨の確認 2. 晴海地区の進捗状況について 3. 晴海五丁目西地区開発計画 計画概要について 4. 海外視察の報告 5. 晴海地区将来ビジョンの実現に向けたソフト施策の具体化について
第3回	平成28年10月23日 14時～	(株)日本建築住宅センター	1. 前回推進会議の議事要旨の確認 2. 晴海二丁目に設置予定のB R Tの交通ターミナル・車庫について 3. 晴海地区将来ビジョンの実現に向けたソフト施策の具体化について
第4回	平成28年12月11日 14時～	晴海区民館	1. 前回推進会議の議事要旨の確認 2. 晴海地区将来ビジョンの実現に向けたソフト施策の具体化について
第5回	平成29年3月1 2日 14時～	晴海区民館	1. 前回推進会議の議事要旨の確認 2. 晴海地区の進捗状況について 3. 晴海地区将来ビジョンの実現に向けたソフト施策の具体化について